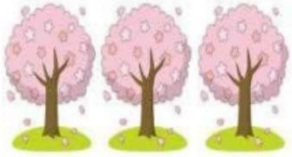
高取小だより　　令和８年１月 16 日



三本桜

第 38 号

ふかく考える子　　あたたかみのある子　　がんばりのきく子
１月の目標：病気に負けない強い体をつくろう

限界突破

25 年近く前のテレビドラマ「相棒　シーズン１」で、杉下右京(水谷豊)が「もしも限界があるとするならば、それはあきらめた瞬間でしょう」という名台詞を言っていました。

さて、限界は誰が決めるのでしょうか。それはもちろん、その人です。それにしても、苦労して結果を出した人の言葉は重さが違います。名横綱千代の富士は「体力の限界」と涙ながらに引退会見しました。今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。千代の富士は「ウルフ」と呼ばれ小さい体でしたが気が強く前頭の頃、横綱輪島と土俵上でにらみ合い、輪島を怒らせ投げ飛ばされました。肩の脱臼を何度も経験しましたが、筋力トレーニングにより徹底的に体を鍛え、さらに前褌(まえみつ)をとりそして頭を相手の腹部に付け一気に押し出す必勝パターンを生み出しました。結果横綱になり 31 回も幕内優勝をしました。その千代の富士の限界という言葉は誰もが納得したものでした。

「結果が出ないとき、どういう自分でいられるか。決してあきらめない姿勢が何かを生み出すきっかけをつくる」と野球のイチローさんは述べています。イチローさんの野球人生は決して始めから華々しいものではなく、何度も失敗を繰り返しもがき苦しんでやっとの思いで結果を出したものです。イチローさんがシアトルマリナーズで記録した年間 262 安打は、なんと 84 年ぶりにシスラーの記録を更新し、20 年以上経った今でもこの記録は破られていません。

子どもたちには、目標の達成や夢が叶うには時間がかかること、しかし、目標の達成や夢の実現に向けて、一歩を前に踏み出す力ことがなければ実現しようがないことを伝えていきたいです。

金融教育の必要性

小学校段階での金融教育は、急速に進むキャッシュレス化や 18 歳成人という社会背景の中、子どもたちが将来、賢く自立した生活を送るための「生きる力」の基礎として不可欠です。

（裏面へ）

第一に、デジタル化による「お金の見えない化」への対応が挙げられます。現代の子どもたちは、QR コード決済やオンラインゲームでの課金など、現金を介さない取引に日常的に触れています。数字が動くだけで価値が移動する環境下では、お金の重みや有限性を実感しにくいため、早期に「お金は働いて得る貴重な資源である」という本質を理解させることが重要になります。

第二に、判断力の基礎を養う意義があります。小学校の時期は価値観の形成期であり、貯蓄の習慣や、欲しいもの（Wants）と必要なもの（Needs）を区別する力を身につけるのに適しています。この段階で計画的な金銭管理や、情報の真偽を見極める批判的思考を学ぶことは、将来的な多重債務やネット詐欺といった金融トラブルを未然に防ぐ強力な防波堤となります。

第三に、金融教育は社会の仕組みを学ぶキャリア教育の一環でもあります。お金の役割（交換・価値の保存・尺度）を知ることは、社会の中での仕事や循環を理解することにつながります。

このように、小学校での金融教育は単なる節約術の習得ではありません。自らの人生を設計する自己管理能力を育み、責任ある消費者として社会に参画するための基盤を築く、極めて重要な教育活動であるといえます。高取小学校では、次年度以降子どもたちの成長段階に応じた金融教育について検討し実践していきたいと考えています。

認知症サポーター養成講座（３年生）

14 日、３年生が総合的な学習の時間に受講しました。認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、偏見をもたず、認知症の人やその家族を温かい目で見守る応援者です。講師の方に認知症についてわかりやすく説明をしていただいたり、認知症の方に対する接し方をテーマにした劇を上演していただきました。小学生でも分かりやすい内容でした。